

## 2017 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6月24日	(1) 議長の互選について (2) 2016 年度事業報告について (3) 2016 年度計算書類（2015 年度計算書類、附属書類〔計算書類関係〕）について
第一回臨時 3月25日	(1) 議長の互選について (2) 2018 年度事業計画について (3) 2018 年度計算書類（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議内容
第一回通常 6月12日	(1)2016 年度事業報告（案）について (2)2016 年度計算書類（案）（2016 年度計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3)2017 年度定時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第二回通常 9月17日	(1)2017 年度学会奨励賞受賞者決定について (2)2017 年度研究大会会場・業務委託に関する契約について (3)科学研究費補助金「国際情報発信強化（B）」について (4)新入会員の承認 (5)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

第三回臨時 10月27日	(1)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2)2017年度施研究大会実施状況について報告
第四回臨時 12月18日	(1)2017年度研究大会実行委員会会計決算について (2)2017年度第一回臨時評議員会開催について (3)新入会員の承認 (4)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第五回通常 3月4日	(1)2018年度事業計画(案)について (2)2018年度計算書類(案)(計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕)について (3)新入会員の承認 (4)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

10月28日、神戸国際会議場において会員総会を開催した。

(1) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
7月31日	Newsletter 152号刊行	会員	学会サイト 公開
10月18日	Newsletter 153号刊行	会員	
1月26日	Newsletter 154号刊行	会員	
4月10日	Newsletter 155号刊行	会員	

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内10件、理事会・委員会からの連絡22件、研究大会の関連情報25件、シンポジウム等の案内や公募情報81件、合計138件の発信をおこなった。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、NLの刊行やウェブ上での会員相互検索システムの導入などについて連絡を行った。

## (2) 会員数の状況

2017年度新入会員	71名
2017年度退会会員	71名

種別	人数
維持会員	0名
一般会員	1,555名
学生会員	294名
シニア A 会員	92名
シニア B 会員	49名
夫婦会員	32名
計	2,022名

2018年3月31日現在

## 2. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行事業

1. 和文機関誌『国際政治』189号「地域研究と国際政治の間」、190号「移民・難民をめぐるグローバル・ポリティクス」、191号「グローバルヒストリーから見た世界秩序の再考」、192号「国際政治研究の先端 15」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、192号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム（J-STAGE）を活用して、すでに公開された『国際政治』のバックナンバーを今期は186号まで公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.17.No.2、同 No.3、Vol.18.No.1 の計3冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。Vol.17.No.3、および Vol.18.No.1 は学会創設60周年記念号として刊行した。

4. 本年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費（国際情報発信強化）」を利用して次の事業を行った。①英文ジャーナル編集委員会の海外委員と会議を行い、投稿の促進や編集体制などについて協議した。②2016年研究大会（幕張）時における学会創設60周年記念部会に基づく *IRAP* 特集号を刊行した。③ *IRAP* の国際的な認知度を高めるために、オックスフォード大学出版局（OUP）に協

力を依頼して、海外の研究者に対する *IRAP* の情報提供やウェブでのキャンペーンなどを行った。

5. *IRAP* のインパクト・ファクター（2016年）が昨年夏に発表され、0.676であったが、2017年度については0.719（予測値）に向上する見込みである。

## (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10月27日～10月29日に神戸国際会議場において、研究大会を開催した。大会参加者は、参加者672人、懇親会298人であった。共通論題ではパネルディスカッション方式で「民主主義と世界秩序」を行い、通常部会14、日韓合同部会1、分科会36企画となった。部会14「ユーラシアのエネルギー安全保障」を市民公開講座として一般に公開した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

## (3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、2名の会員に助成を行った。

2. KAIS（韓国国際政治学会）との交流を行った。石田理事長が12月8日～9日には韓国（ソウル市）におけるKAISの研究大会に出席し、総会で日本国際政治学会を代表してスピーチを行った。また、研究大会（神戸市、10月28日）では、日韓合同部会「歴史の記憶と国際関係—東アジアを中心に」を開催し、KAISから3名、日本国際政治学会から3名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会（神戸市）では、日韓合同部会の開催について江草基金より研究集会助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

## (4)他 1. 研究活動奨励事業

2017年度の第10回学会奨励賞を、向山直佑会員の「第三国による歴史認識問題への介入の要因と帰結 —アルメニア人虐殺へのジェノサイド認定とトルコ」(『国際政治』187号)に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手執筆者を対象と

した学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する *World Political Science* に学会から推薦される。また、2016年度第9回学会奨励賞を受賞した黒田会員による論文英訳に対して助成を行った。

## 2. 庶務の概要

### (1) 役員等に関する事項

#### 2017年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	石田 淳	東京大学教授
副理事長	佐々木 卓也	立教大学教授
理事	飯田 敬輔	東京大学教授
	石川 卓	防衛大学校教授
	遠藤 誠治	成蹊大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	大島（岡本）美穂	津田塾大学教授
	大矢根 聡	同志社大学教授
	都丸 潤子	早稲田大学教授
	森井 裕一	東京大学教授
	山田 敦	一橋大学教授
	山田 哲也	南山大学教授

監事	太田 宏	早稲田大学教授
	首藤 もと子	筑波大学教授

評議員	赤木 完爾	慶應義塾大学教授
	大芝 亮	青山学院大学教授
	吉川 元	広島市立大学教授
	久保 文明	東京大学教授
	國分 良成	防衛大学校校長
	古城（久具）佳子	東京大学教授
	酒井 啓子	千葉大学教授
	添谷 芳秀	慶應義塾大学教授
	田所 昌幸	慶應義塾大学教授
	田中 明彦	東京大学教授
	中西 寛	京都大学教授

	李 鍾元	早稲田大学教授
--	------	---------

【一般財団法人 日本国際政治学会】

## 2017 年度事業報告・付属明細書

一般財団法人日本国際政治学会 2017年研究大会 部会・共通論題プログラム

10月27日（金）

受付開始 12:00

午後の部会（13:00～15:30）

### 部会1 「東アジアの安全保障と金融にかかわる対立と協調の制度分析」

(Institutional Analysis of Conflict and Cooperation in East Asia Security and Finance)

Chair: Keisuke Iida, University of Tokyo

Speakers:

Shoko Kohama, Hokkaido University

“Information Sharing in Early Stage International Disputes: How Countries Communicate in East Asia”

Shuhei Kurizaki, Waseda University

“Collective Self-Defense and the Security Dilemma”

Motoshi Suzuki, Kyoto University

“The Politics and Institutions of Developmental Aid Competition in Asia”

Commentators:

Masaru Kohno, Waseda University

Atsushi Ishida, University of Tokyo

### 部会2 「オバマ外交の8年をふりかえる——関係諸国の視点から」

司会：佐藤丙午（拓殖大学）

報告：

小谷哲男（日本国際問題研究所）「『対等な同盟』から『希望の同盟』へ——オバマ政権のリバランスと日米同盟」

兵頭慎治（防衛研究所）「米露関係からみたオバマ外交の8年——ロシアの視点から」

神保謙（慶應義塾大学）「米・ASEAN関係の展開——リバランス政策の地域的受容」

討論：森聡（法政大学） 福田円（法政大学）

### 部会3 「東アジアにおけるASEANの中心性——理論と歴史」

司会：菊池努（青山学院大学）

報告：黒田友哉（帝京大学）「1970年代のASEAN／EC関係」

保城広至（東京大学）「福田ドクトリンとASEAN」

大庭三枝（東京理科大学）「ASEANの中心性——小国戦略の『成果』の一例として」

討論：田中明彦（政策研究大学院大学）庄司智孝（防衛研究所）

#### 部会4 「グローバル化する私的空間——国際政治学の挑戦」

司会・討論：石井由香（静岡県立大学）

報告：清水耕介（龍谷大学）「日常性の国際政治学——モラルの起源としての私的経験について」

辻上奈美江（東京大学）「サウジアラビアにおける親密圏のグローバル化と雇用主女性による権力交渉」

小川玲子（千葉大学）「東アジアにおける移住ケア労働者の構築」

討論：前田幸男（創価大学）

#### 部会5 自由論題部会「国家主権の変容とグローバル・ガバナンス」

司会：増島建（神戸大学）

報告：榎本珠良（明治大学）「非国家主体（NSAs）への武器移転問題と国家主権」

大森佐和（国際基督教大学）「IMF や世界銀行のプログラムを通じて金融改革に与える影響の変容の検討」

尾和潤美（中京大学）「グローバル・ガバナンスの変容とOECD」

討論：市原麻衣子（一橋大学）

和田洋典（青山学院大学）

分科会セッションA（15:45～17:15）別掲

分科会セッションB（17:30～19:30）別掲

第2日 10月28日（土）

受付開始 9:00

午前の部会（9:30～12:00）

#### 部会6 日韓合同部会「歴史の記憶と国際関係——東アジアを中心に」（日本語で実施）

司会：佐々木卓也（日本国際政治学会副理事長・立教大学）

報告：江藤名保子（日本貿易振興機構アジア経済研究所）「中国の歴史認識と対日政策」

南基正（ソウル大学校日本研究所）「平和問題としての韓日和解——歴史の正義の政治の現実の対話」

朴栄濬（国防大学校）「帝国の記憶と対外政策——安倍総理の戦後70年談話（2015. 8.」



4) に対する韓国からの評価」

討論：高島亜紗子（東京理科大学） 金淑賢（国家安保戦略研究院）

#### 部会7「国際政治理論からみる東アジアの安全保障」

司会：土山實男（青山学院大学）

報告：佐桑健太郎（青山学院大学）「民主主義は平和をもたらすのか——国際平和と政治体制の共進化モデル」

泉川泰博（中央大学）「バランス／バンドワゴニング理論の陥穽と冷戦時東アジア同盟」

松岡美里（東海大学）「日本の『価値外交』の展開——批判的アプローチから見るアジア太平洋地域におけるアメリカ覇権」

討論：多湖淳（神戸大学） 益尾知佐子（九州大学）

#### 部会8「冷戦史研究の多角的展開——文化・社会・人権」

司会・討論：菅英輝（京都外国語大学）

報告：齋藤嘉臣（京都大学）「冷戦とジャズ——『アメリカの音楽』の政治学」

伊豆田俊輔（獨協大学）「東ドイツにおける社会主義リアリズムと冷戦」

小阪裕城（長野県短期大学）「戦後世界秩序の出発点における『人権』とアメリカ——『フォーラム』としての国連、『抗議のコトバ』としての人権に着目して」

討論：井関正久（中央大学）

#### 部会9「『国際政治学』は終わったのか？」

司会：西村邦行（北海道教育大学）

報告：芝崎厚士（駒澤大学）「ディシプリンの国際文化交渉——日本の国際関係研究とIRの関係史序説」

小林誠（お茶の水女子大学）「自己実現的予言としての国際政治学——自閉する公理の権力」

五十嵐元道（関西大学）「リフレキシビズムとは何か——ポスト実証主義の理論的展開」

討論：酒井啓子（千葉大学） 宮下雄一郎（松山大学）

#### 部会10「歴史としての冷戦後——冷戦終結直後から現在を展望する」

司会：納家政嗣（上智大学）

報告：村田晃嗣（同志社大学）「ロナルド・レーガンの長い影——冷戦後のアメリカ外交」

池本大輔（明治学院大学）「EU・国際経済秩序・社会モデル——通貨統合の夢と現実」

青山瑠妙（早稲田大学）「中国と冷戦後の国際秩序」

討論：田所昌幸（慶応義塾大学） 相沢伸広（九州大学）

分科会セッションC (13:30~15:10) 別掲

総会 (15:10~15:30)

**共通論題 (15:30~18:20)**

「デモクラシーと世界秩序」 (パネルディスカッション)

司会：岩間陽子 (政策研究大学院大学)

パネリスト：遠藤乾 (北海道大学)

川島真 (東京大学)

吉川元 (広島市立大学)

武内進一 (東京外国語大学／アジア経済研究所)

西崎文子 (東京大学)

懇親会 19:00~20:30 [神戸ポートピアホテル・大輪田]

第3日 10月29日 (日)

受付開始 9:00

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:45) 別掲

午後の部会 (14:00~16:30)

**部会11「『帰属の政治』の現状と展開——理論と実証研究の対話を通じて」**

司会：土佐弘之 (神戸大学)

報告：大岡栄美 (関西学院大学) 「カナダにおける多文化社会と帰属をめぐる挑戦——P.トルドーからJ.トルドーへ」

日下渉 (名古屋大学) 「国家を盗った『義賊』——フィリピン・ドゥテルテ政権の自己矛盾」

浪岡新太郎 (明治学院大学) 「フランスにおける宗教的多元主義と過激化——エスニックブラインドな共和国モデルから治安の多文化主義へ」

討論：山崎望 (駒澤大学)

川村陶子 (成蹊大学)

**部会12「せめぎあう国際秩序観——1930年代と現在の比較から」**

司会：戸澤英典 (東北大学)

報告：北村厚 (神戸学院大学) 「1930年代におけるドイツとイタリアの『中欧』をめぐる対立——ファシズムのヨーロッパ秩序に向けて」

馬路智仁 (早稲田大学) 「『大ブリテン』の長い影——アングロ圏 (Anglosphere) 構想、1930年代と現代」

武田知己（大東文化大学）「新秩序外交とは何だったのか——1930年代の日本政治外交史にみるその射程・規範・利益・権力」

討論：大島美穂（津田塾大学） 三牧聖子（高崎経済大学）

### 部会13 タスクフォース企画「日本の国際関係論の再検討——『外圧反応型国家』としての日本外交をめぐる研究の位相」

司会・討論：大芝亮（青山学院大学）

報告：古城佳子（東京大学）「グローバル化における日本の対外経済政策の変化——『外圧』の作用と市場」

添谷芳秀（慶應義塾大学）「日本の安全保障政策——『自立』と『依存』の狭間で」

波多野澄雄（国立公文書館アジア歴史資料センター）「『外圧反応国家論』を超えて——日本外交150年の起伏」

討論：宮下明聡（東京国際大学）

### 部会14「ユーラシアのエネルギー安全保障」【市民講座】

司会：宮脇昇（立命館大学）

報告：平川幸子（早稲田大学）「中国のエネルギー戦略と地域主義外交」

湯浅剛（広島平和研究所）「ユーラシア国際関係におけるエネルギー・ファクター」

稲垣文昭（秋田大学）「旧ソ連諸国の電力インフラ再編と安全保障上の課題——中央アジアにおける対立と調和」

討論：宇山智彦（北海道大学）

伊藤庄一（日本エネルギー経済研究所）

### 部会15 自由論題部会「ユーラシア・中央アジアの外交と秩序」

司会：中溝和弥（京都大学）

報告：青木健太（お茶の水女子大学）「世界秩序の変容とアフガニスタンの統治——『体制移行』と『力の空白』に着目して」

熊倉潤（日本学術振興会・台湾政治大学）「中国のカザフスタン外交と新疆少数民族問題」

三宅康之（関西大学）「独立期インドと中華人民共和国の国交樹立過程の解明」

討論：星野昌裕（南山大学）

岡田晃枝（東京大学）

日本国際政治学会 2017 年度研究大会分科会プログラム

◆10月27日(金)

分科会セッション A (15:45~17:15)

<b>A-1</b>	<b>東アジア I</b>	責任者	飯田 将史 (防衛研究所)
テーマ	地域秩序をめぐる東アジアの国際関係		
司会	飯田 将史 (防衛研究所)		
報告	益尾 知佐子 (九州大学)		
	「中国の 21 世紀海洋シルクロード構想と東アジア」		
	湯澤 武 (法政大学)		
	「南シナ海のルール形成をめぐる国際政治—規範とパワーの相克」		
	ロート・アントワン・アルミン (東京大学)		
	「東アジアにおける規範的影響力をめぐる日中ステータス競争」		
討論	庄司 智孝 (防衛研究所)		

<b>A-2</b>	<b>東南アジア</b>	責任者	板谷 大世 (広島市立大学)
テーマ	東南アジアにおける戦後和解と文化協力		
司会	板谷 大世 (広島市立大学)		
報告	渡辺 洋介 (大阪経済法科大学)		
	「マレー半島における戦後和解～草の根交流を中心に～」		
	井原 伸浩 (名古屋大学)		
	「ASEAN 文化基金の設立過程」		
討論	永井 均 (広島市立大学)		
	高埜 健 (熊本県立大学)		

<b>A-3</b>	<b>理論と方法 I</b>	責任者	鈴木 一敏 (広島大学)
テーマ	政治の数量化と分析		
司会	鈴木 一敏 (広島大学)		
報告	大村 啓喬 (滋賀大学)		
	「日本における旗の下の集結効果：誰が政府を支持しているのか？」		
	河合 将志 (大阪大学)		
	「機械学習による大統領令の計量——対外政策にもとづく党派性は存在するの か」		
討論	籠谷 公司 (大阪経済大学)		

<b>A-4</b>	<b>トランスナショナル I</b>	責任者	岡部 みどり (上智大学)
テーマ	トランスナショナルな諸問題		
司会	岡部 みどり (上智大学)		
報告	市川 颯 (関西学院大学)		
	「欧州におけるトランスナショナルな動向とその課題—エネルギー対策とヒトの移動に着目して」		
	荻野 晃 (長崎県立大学)		
	「オルバーン政権のエネルギー政策と難民危機への対応」		
	望月 康恵 (関西学院大学)		
	「トランスナショナルなヒトの移動に対する国連の取組み」		
討論	臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)		

<b>A-5</b>	<b>国連研究 I</b>	責任者	本多 美樹 (法政大学)
テーマ	国際的なレジームとガバナンス形成をめぐる国連の役割		
司会	本多 美樹 (法政大学)		
報告	真嶋 麻子 (日本大学)		
	「民主的ガバナンス概念の成立にみる国連開発計画 (UNDP) の政策形成」		
	佐藤 滋之 (早稲田大学)		
	「『ニューヨーク宣言』に見る国際難民保護レジームの現在地と展望」		
討論	大平 剛 (北九州市立大学)		
	上野 友也 (岐阜大学)		

<b>A-6</b>	<b>平和研究 I</b>	責任者	佐藤 史郎 (大阪国際大学)
テーマ	自由論題		
司会	佐藤 史郎 (大阪国際大学)		
報告	大嶋 えり子 (早稲田大学)		
	「植民地支配と独立戦争を記憶する—南仏都市におけるアルジェリアの引揚者の活動」		
	清水 奈名子 (宇都宮大学)		
	「3.11原発震災後の人間の安全保障—不可視化される被害とグローバルな問題構造の分析」		
討論	藤井 篤 (香川大学)		
	蓮井 誠一郎 (茨城大学)		

<b>A-7</b>	<b>若手研究者・院生研究会</b>	責任者	赤川 尚平（慶應義塾大学）
テーマ	自由論題		
司会	赤川 尚平（慶應義塾大学）		
報告	伊藤 頌文（慶應義塾大学）		
	「リビア政変を巡るイギリス外交——英軍基地撤収問題を中心に、1969-70年」		
	志田 淳二郎（中央大学）		
	「冷戦終結期の欧州とアメリカ外交：欧州新秩序をめぐる『慎重な現実主義』」		
討論	篠崎 正郎（防衛省統合幕僚監部）		
	吉留 公太（神奈川大学）		

### 分科会セッション B (17:30～19:30)

<b>B-1</b>	<b>日本外交史 I</b>	責任者	熊本 史雄（駒澤大学）
テーマ	公文書に基づく日ソ戦争（1945年）の再検討		
司会	麻田 雅文（岩手大学）		
報告	花田 智之（防衛研究所）		
	「ソ連の対日参戦における国家防衛委員会の役割」		
	加藤 聖文（人間文化研究機構国文学研究資料館）		
	「ソ連軍の満洲進攻と関東軍の解体」		
	小林 昭菜（法政大学）		
	「『シベリア抑留』の発生—関東軍兵士のソ連移送と配置」		
討論	麻田 雅文（岩手大学）		

<b>B-2</b>	<b>東アジア国際政治史</b>	責任者	阿南 友亮（東北大学）
テーマ	新中国の国家統合をめぐる国際関係		
司会	阿南 友亮（東北大学）		
報告	福田 円（法政大学）		
	「中国とカナダの国交正常化交渉—西側諸国との関係改善と『一つの中国』」		
	田中 周（早稲田大学）		
	「新疆における中国共産党の国家建設：1940-50年代の軍事的側面を中心に」		
討論	阿南 友亮（東北大学）		
	星野 昌裕（南山大学）		

<b>B-3</b>	<b>理論と方法Ⅱ</b>	責任者	鈴木 一敏 (広島大学)
テーマ	国際政治理論の発展		
司会	鈴木 一敏 (広島大学)		
報告	張 雲 (新潟大学)		
	「地域研究と政治学との対話——アメリカと中国のケースを中心に」		
	田中 マリア (早稲田大学)		
	「批判的・科学的実在論からみる国際秩序の形態生成——シルクロード経済ベルト (SREB) とアジアインフラ投資銀行 (AIIB) の変革的インパクトを事例として」		
	伊藤 隆太 (慶應義塾大学)		
	「国際政治研究への進化政治学の適用——そのリアリスト理論への貢献を例として」		
討論	瀬島 誠 (大阪国際大学)		
	保城 広至 (東京大学)		

<b>B-4</b>	<b>安全保障Ⅰ</b>	責任者	千々和 泰明 (防衛研究所)
テーマ	日米同盟の東南アジアにおける非伝統的安全保障面での役割		
司会	千々和 泰明 (防衛研究所)		
報告	信田 智人 (国際大学)		
	「ミンダナオ紛争解決と日米両国の取組」		
	山口 昇 (国際大学)		
	「東南アジアでの国際的災害救援活動における民軍連携と日米同盟」		
	伊藤 剛 (明治大学)		
	「ミャンマーの民主化と日米関係」		
	熊谷 奈緒子 (国際大学)		
	「『人間の安全保障』、『人権』としての人身取引対策：タイ人身取引問題対策への日米の相互補完的支援—被害者保護と加害者処罰」		
討論	福島 安紀子 (青山学院大学)		
	本名 純 (立命館大学)		

<b>B-5</b>	<b>国際政治経済Ⅰ</b>	責任者	岡本 次郎 (下関市立大学)
テーマ	FTA・投資協定をめぐる新しい視角		
司会	岡本 次郎 (下関市立大学)		
報告	西村 もも子 (東京大学)		
	「投資協定の締結と米国の国内政治」		

	柳 蕙琳 (京都大学)
	「FTA 政策での制度変化と制度の内生性：日韓の制度構造における比較分析」
	須田 祐子 (東京外国語大学)
	「FTA/EPA とデータプライバシー」
討論	山田 敦 (一橋大学)
	小川 裕子 (東海大学)

<b>B-6</b>	<b>トランスナショナル I</b>	責任者	岡部みどり
テーマ	独立論題		
司会	岡部 みどり (上智大学)		
報告	下谷内 奈緒 (日本学術振興会特別研究員)		
	「国際刑事裁判と法の支配—強制力と正統性をめぐる政治学的分析」		
	小林 綾子 (ハーヴァード大学)		
	「内戦における人道アクセス問題の比較分析」		
	牧野 久美子 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)		
	「反アパルトヘイト国際連帯と日本の市民運動」		
	手塚 沙織 (同志社大学)		
	「米国の移民政策における IT 産業集積地域シリコンバレーの政治勢力」		
討論	篠田 英朗 (東京外国語大学)		
	明石 純一 (筑波大学)		

<b>B-7</b>	<b>環境</b>	責任者	毛利 勝彦 (国際基督教大学)
テーマ	環境外交の理論と実際		
司会	毛利 勝彦 (国際基督教大学)		
報告	岡本 哲明 (東京大学)、石井 敦 (東北大学)、宮後 裕充 (東北大学)		
	「論文引用ネットワーク分析による認識共同体の実証—臨界負荷量を事例として—」		
	阪口 功 (学習院大学)、真田 康弘 (早稲田大学)、毛利 勝彦 (国際基督教大学)		
	「グリーンイシューにおける日本の環境外交の展開—ラムサール・CITES・森林・CBD—」		
	太田 宏 (早稲田大学)、亀山 康子 (国立環境研究所)、宮崎 麻美 (熊本学園大学)		
	「ブラウンイシューにおける日本の環境外交の展開—オゾン・気候・BRS・水俣条約—」		



討論	高橋 若菜 (宇都宮大学)
----	---------------

◆10月28日(土)

分科会セッションC(13:30~15:10)

<b>C-1</b>	<b>日本外交史Ⅱ</b>	責任者	熊本 史雄 (駒澤大学)
テーマ	国際秩序の模索と日本外交		
司会	熊本 史雄 (駒澤大学)		
報告	醍醐 龍馬 (大阪大学)		
	「明治初期日露関係の形成—樺太千島交換条約とその時代—」		
	矢嶋 光 (名城大学)		
	「外務省『連盟派』とその政策」		
討論	中谷 直司 (三重大学)		
	小宮 一夫 (駒澤大学)		

<b>C-2</b>	<b>東アジアⅡ</b>	責任者	飯田 将史 (防衛研究所)
テーマ	朝鮮半島をめぐる諸問題		
司会	飯田 将史 (防衛研究所)		
報告	PARK Seohee Ashley (立命館アジア太平洋大学)		
	「北朝鮮による日本人拉致問題に対する日本国内政治及び外交政策」		
	崔 正勲 (立命館大学)		
	「金正恩政権における核兵器高度化と対外政策の特徴」		
	Yang Xiangfeng (Yonsei University)		
	「The Charm Offensive That Failed to Disarm」		
討論	西野 純也 (慶應義塾大学)		

<b>C-3</b>	<b>アフリカ</b>	責任者	加茂 省三 (名城大学)
テーマ	地域と紛争の力学		
司会	加茂 省三 (名城大学)		
報告	鶴田 綾 (中京大学)		
	「ルワンダ・旧英領東アフリカ関係—独立前後と現在の比較—」		
	古澤 嘉朗 (広島市立大学)		
	「移行期・紛争社会における法の多元性について：ケニアとシエラレオネの事例より」		
	大石 晃史 (国立情報学研究所)		

	「コンゴ民主共和国における武装勢力の離合集散」
討論	戸田 真紀子（京都女子大学）

<b>C-4</b>	<b>国際統合Ⅱ</b>	責任者	臼井 陽一郎（新潟国際情報大学）
テーマ	EU 政治の諸相		
司会	小山 晶子（東海大学）		
報告	武田 健（東海大学）		
	「外交戦術としての国民投票—EU における諸事例の考察」		
	南波 慧（一橋大学）		
	「英仏国境における難民危機—『ジャングル』解体をめぐる＜欧州＞の可視性と不可視性」		
討論	小川 有美（立教大学）		
	小山 晶子（東海大学）		

<b>C-5</b>	<b>安全保障Ⅱ</b>	責任者	千々和 泰明（防衛研究所）
テーマ	複合的危機への対応をめぐるアクター間協力—南スーダンを事例に		
司会	千々和 泰明（防衛研究所）		
報告	川口 智恵（JICA 研究所）		
	「アメリカ型全政府アプローチの形成：90 年代の南部スーダンに対する援助を事例に」		
	田中（坂部） 有佳子（青山学院大学）		
	「2005 年包括和平合意以降の対南スーダン支援における包括的アプローチの実現：英国と EU を事例として」		
	井上 実佳（東洋学園大学）		
	「複合的危機に対する国連の統合アプローチと南スーダン」		
	山本 慎一（香川大学）		
	「南スーダンの複合的危機における法制度的枠組みの考察：国際レベルと日本の比較を通じて」		
討論	久保田 徳仁（防衛大学校）		

<b>C-6</b>	<b>国連研究Ⅱ</b>	責任者	本多 美樹（法政大学）
テーマ	国連による地域安定化への努力と課題		
司会	本多 美樹（法政大学）		
報告	藤巻 裕之（東海大学）		
	「旧ソ連地域の脅威と地域主義」		

	趙 一中 (九州大学)
	「中国の対北朝鮮安保政策：決議第 2321 号採択過程の『法的拘束力』を中心に」
討論	宮脇 昇 (立命館大学)
	吉村 祥子 (関西学院大学)

<b>C-7</b>	<b>平和研究Ⅲ</b>	責任者	佐藤 史郎 (大阪国際大学)
テーマ	核軍縮・核不拡散に向けた非軍事的手段の模索：朝鮮半島非核化を事例として		
司会	佐藤 史郎 (大阪国際大学)		
報告	一政 祐行 (防衛研究所)		
	「核兵器開発に対する経済制裁の効用とその限界」		
	渡邊 武 (防衛研究所)		
	「規範充足による北朝鮮の核開発への対応」		
討論	倉田 秀也 (防衛大学校)		
	佐藤 史郎 (大阪国際大学)		

◆10月29日(日)

分科会セッションD (9:30~11:00)

<b>D-1</b>	<b>欧州国際政治史・欧州研究Ⅰ</b>	責任者	広瀬 佳一 (防衛大学校)
テーマ	欧州における安全保障システムの起源と現状		
司会	広瀬 佳一 (防衛大学校)		
報告	西田 竜也 (広島市立大学)		
	「WUDO、EDC、WEUそしてNATO—冷戦初期の同盟形成について—」		
	小林 正英 (尚美学園大学)		
	「EU-NATO 関係の現在—ソマリア沖海賊対策作戦の事例を中心に—」		
討論	合六 強 (二松学舎大学)		
	岩間 陽子 (政策研究大学院大学)		

<b>D-2</b>	<b>アメリカ政治外交</b>	責任者	倉科 一希 (広島市立大学)
テーマ	冷戦期アメリカ外交の諸相		
司会	倉科 一希 (広島市立大学)		
報告	高津 智子 (九州大学)		
	「冷戦初期のアメリカのヨーロッパ統合構想と国家・民間ネットワーク」		

	加藤 智裕 (一橋大学)
	「ケネディ政権期の南アジア政策」
	吉本 秀子 (山口県立大学)
	「アイゼンハワー政権期における対沖縄情報政策の変容」
討論	土屋 由香 (京都大学)
	渡邊 啓貴 (東京外国語大学)

<b>D-3</b>	<b>ロシア東欧</b>	責任者	小森 宏美 (早稲田大学)
テーマ	1930年代の東欧・ソ連		
司会	小森 宏美 (早稲田大学)		
報告	重松 尚 (東京大学)		
	「リトアニア人行動主義連合 (LAS) の国家観」		
	立石 洋子 (成蹊大学)		
	「ソ連の国家建設と自国史像」		
討論	石田 信一 (跡見学園女子大学)		
	中田 瑞穂 (明治学院大学)		

<b>D-4</b>	<b>中東</b>	責任者	吉川 卓郎 (立命館アジア太平洋大学)
テーマ	中東諸国の外交・安全保障政策と国内要因		
司会	吉川 卓郎 (立命館アジア太平洋大学)		
報告	浜中 新吾 (龍谷大学)		
	「イスラエルにおける旗下集結効果の持続：世論調査実験によるアプローチ」		
報告	三田 香織 (在米クウェイト領事館)		
	「湾岸国のセミデモクラシー 原油価格低下による政治的・社会的影響」		
討論	江崎 智絵 (防衛大学校)		
	石黒 大岳 (アジア経済研究所)		

<b>D-5</b>	<b>ラテンアメリカ分科会</b>	責任者	ロメロ イサミ (帯広畜産大学)
テーマ	ラテンアメリカの国内政治：大統領制と中絶政策を中心に		
司会	舩方 周一郎 (神田外語大学)		
報告	新川 匠郎 (上智大学)		
	「ラテンアメリカの大統領制下における大連立：ブラジルの事例分析を通じて」		
	笛田 千容 (政策研究大学院大学)		
	「ラテンアメリカにおける人工妊娠中絶の違法化と合法化—中絶政策の比較研		

	究に向けて」
討論	宮地 隆廣（東京大学）

<b>D-6</b>	<b>国際政治経済Ⅱ</b>	責任者	岡本 次郎（下関市立大学）
テーマ	新たな対外経済政策分野における日本の政策過程		
司会	岡本 次郎（下関市立大学）		
報告	横田 匡紀（東京理科大学）		
	「グローバルな規制受容をめぐる企業アクターの活動：遺伝資源の事例」		
	礪波 亜希（筑波大学）		
	「Foreign Policy of a Modern Developmental State: Japan and Its Economic Diplomacy towards the Arctic」		
討論	大矢根 聡（同志社大学）		

<b>D-7</b>	<b>政策決定</b>	責任者	吉崎 知典（防衛研究所）
テーマ	アメリカの対外関与		
司会	吉崎 知典（防衛研究所）		
報告	西住 祐亮（中央大学）		
	「ウクライナ問題をめぐる連邦議会・大統領関係：オバマ・トランプ政権期の新たな傾向に注目して」		
	辛 女林（一橋大学）		
	「在日米軍政策におけるアクター間の合意過程」		
討論	信田 智人（国際大学）		
	大友 貴史（筑波大学）		

<b>D-8</b>	<b>平和研究Ⅲ</b>	責任者	佐藤 史郎（大阪国際大学）
テーマ	科学技術と安全保障の相克		
司会	佐藤 史郎（大阪国際大学）		
報告	齊藤 孝祐（横浜国立大学）		
	「科学技術と安全保障をめぐる戦後日本の政治論争」		
	松村 博行（岡山理科大学）		
	「防衛研究開発におけるオープンイノベーションの実現—その意義と課題」		
討論	村山 裕三（同志社大学）		
	櫻井 公人（立教大学）		

分科会セッションE (11:15~12:45)

<b>E-1</b>	<b>日本外交史Ⅲ</b>	責任者	熊本 史雄 (駒澤大学)
テーマ	戦後国際社会の変動と日本外交		
司会	熊本 史雄 (駒澤大学)		
報告	楠 綾子 (国際日本文化研究センター)		
	「防衛分担金をめぐる日米関係」		
	長谷川 貴志 (国立公文書館)		
	「日華断交における自民党親台湾派の構図」		
討論	高橋 和宏 (防衛大学校)		

<b>E-2</b>	<b>欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ</b>	責任者	広瀬 佳一 (防衛大学校)
テーマ	戦間期国際秩序の再編		
司会	君塚 直隆 (関東学院大学)		
報告	藤山 一樹 (慶応義塾大学)		
	「パリ不戦条約の成立とイギリス外交」		
	帯谷 俊輔 (国立公文書館)		
	『『強制的連盟』と『協議的連盟』の狭間で——国際連盟改革論の位相』		
討論	等松 春夫 (防衛大学校)		
	五十嵐 元道 (関西大学)		

<b>E-3</b>	<b>国際統合Ⅱ</b>	責任者	臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)
テーマ	EU 統合の諸相		
司会	河越 真帆 (神田外語大学)		
報告	植村 充 (東京大学)		
	「欧州化再検討—「政体」、「政策」、「政治」の3次元におけるEUの構成国に対する影響」		
	津田 久美子 (北海道大学)		
	「トービン税からEU金融取引税へ—国際『課税』統合の試みと欧州統合」		
討論	河越 真帆 (神田外語大学)		
	神江 沙蘭 (関西大学)		

<b>E-4</b>	<b>安全保障Ⅲ</b>	責任者	千々和 泰明 (防衛研究所)
テーマ	現代安全保障課題の諸相—軍事戦略・核不拡散・対テロ		
司会	千々和 泰明 (防衛研究所)		

報告	下平 拓哉 (防衛研究所)
	「インド・アジア・太平洋地域における米海軍戦略の変化—作戦的視点から」
	榎本 浩司 (一橋大学)
	「消極的安全保障と核のタブー」
	池内 恵 (東京大学)
	「国際テロリズムの構成主義的な解釈と対処法」
討論	小谷 哲男 (日本国際問題研究所)
	宮坂 直史 (防衛大学校)

<b>E-5</b>	<b>国際交流</b>	責任者	飯森 明子 (常磐大学)
テーマ	自由論題		
司会	飯森 明子 (常磐大学)		
報告	山内 晴子 (朝河貫一研究会)		
	「朝河貫一の『民主主義』：天皇制民主主義の学問的起源」		
	秋元 美紀 (元東京国際大学)		
	「戦後日本の対中東文化交流活動—KBS・国際交流基金の事業を中心に」		
討論	酒井 一臣 (九州産業大学)		
	小川 忠 (跡見学園女子大学)		

<b>E-6</b>	<b>平和研究IV</b>	責任者	佐藤 史郎 (大阪国際大学)
テーマ	<書評会> 『シリーズ 日本の安全保障 全 8 巻』 (岩波書店) から日本の平和と安全保障を考える		
司会	佐藤 史郎 (大阪国際大学)		
報告	遠藤 誠治 (成蹊大学)		
	遠藤 乾 (北海道大学)		
討論	佐々木 寛 (新潟国際情報大学)		
	川名 晋史 (東京工業大学)		

<b>E-7</b>	<b>ジェンダー</b>	責任者	森田 豊子 (鹿児島大学)
テーマ	国際関係のなかの女性の就業とジェンダー		
司会	森田 豊子 (鹿児島大学)		
報告	堀 芳枝 (獨協大学)		
	「フィリピンで成長するサービス産業とジェンダー：コールセンターの分析を中心に」		
	藤屋 リカ (慶應義塾大学)		

	「パレスチナ自治区での女性の就業と特殊合計出生率」
討論	田村 慶子 (北九州市立大学)